

「放課後の子どもの活動支援対策」

1 現状と課題	○コロナ禍により企業のCSR活動が中止となるなど、放課後児童クラブにおいては、子ども一人ひとりの体験活動の機会が不足している。また、児童クラブだけでなく、高校生たちの体験活動についても同様の傾向が見られる。この課題を解決するためには、体験活動を提供する担い手の不足を解消するとともに、放課後児童クラブにおける子ども達の体験活動の充実を図る新たな仕組みの構築が継続的に必要となってくる。
2 期待される効果	○放課後児童クラブにおける、子ども達の体験活動の充実かつ持続する仕組みが構築される。 ○ボランティアに積極的に関わる高校生の増加及び人材の育成。

3 事業実践方法	<p>(1) 概要(目的)</p> <p>ア プログラム開発を行う開発会議を開催し、モデルプログラムを作成する。 イ モデルプログラムを任意の児童クラブにおいて実践する。 ウ 高校生及び行方市高校生育成会(高校生ボランティア)が市内児童クラブへ出向き活動支援をする。 エ 必要に応じて、体験活動の講師を派遣する。</p> <p>(2) 対象者</p> <p>行方市内放課後児童クラブ(行方市子ども福祉課) 行方市高校生ボランティア(行方市教育委員会生涯学習課) 行方市在住の高校生及び当該市所在の高等学校に通う生徒</p> <p>(3) 開発委員の構成</p>
----------	--

所属	役職等
行方市教育委員会生涯学習課	参事
茨城県鹿行教育事務所	主任社会教育主事
行方市教育委員会生涯学習課	主事
行方市放課後児童クラブ運営委託業者	神栖事務所エリアマネージャー
行方市教育委員会生涯学習課	主事
茨城県立玉造工業高等学校	電気科 教諭
行方市市民福祉部子ども福祉課	課長補佐
行方市市民福祉部子ども福祉課	子育て支援グループ主事
県教育庁総務企画部生涯学習課	振興 G 担当 指導主事 主査
茨城県鹿行生涯学習センター	企画振興課長 企画振興課社会教育主事

(4) 具体的な取組について

①- 1 会議・交流会(議)等

期日	内容	出席者等	備考
令和4年 10月25日(火)	第1回課題解決チャレンジ事業開発委員会(オンライン) 協議:事業の概要について モデルプログラムの開発	開発委員(7名)	※1
11月12日(土)	研修、実践及びボランティア解散後、開発委員会議を実施(参集型)		※2
11月15日(火)	第2回課題解決チャレンジ事業開発委員会(オンライン) 協議:モデルプログラムの検証・分析 モデルプログラムの改善① 次年度計画①(内容・回数・実施時期等)		※1
12月26日(月)	第3回課題解決チャレンジ事業開発委員会(参集型) 協議:モデルプログラムの改善②(実践の反省・改善案等) 次年度計画②		※3
令和5年 1月10日(火)	第4回課題解決チャレンジ事業開発委員会(オンライン) 協議:モデルプログラムの改善③ 次年度計画③		※1

2月22日(水)	第5回課題解決チャレンジ事業開発委員会(オンライン) 報告:令和4年度実施プログラムについて		※1
6月20日(火)	【継続】第1回課題解決チャレンジ事業開発委員会(オンライン)		※1
6月23日(水)	【継続】第2回課題解決チャレンジ事業開発委員会(参集型) 協議:研修・実践内容の熟議等	行方市市民福祉部こども福祉課 放課後児童クラブ運営委託業者 行方市教育委員会生涯学習課 茨城県鹿行生涯学習センター 計5名	※4
7月12日(水)	【継続】第3回課題解決チャレンジ事業開発委員会(オンライン) 協議:研修・実践内容の確認等	開発委員(7名)	※1
7月18日(火)	【継続】第4回課題解決チャレンジ事業開発委員会(オンライン) 協議:研修及び実践の反省・改善案等		※1
令和6年 2月7日(水)	【継続】第5回課題解決チャレンジ事業開発委員会(オンライン) 報告:課題解決チャレンジについて		※1

※1 鹿行生涯学習センターより配信

※2 玉造農村環境改善センター(玉造キッズ1・2)

※3 北浦こども館(北浦キッズ)

※4 行方市役所北浦庁舎内

①ー2 実施にあたり、工夫した点や留意した点

<p>コロナ感染拡大及び効率性を考慮し、会議についてはオンラインと参集を併用して実施した。ボランティア参加者が当日の行動に困らないようにタイムスケジュールを作成し、事前に共有した。実践内容については、高校生会のスキルアップ及びこれまでの活動での経験をふまえた内容、工業高校生の技能を生かしたもの作り活動などを取り入れ、地域の人材を活用して持続できる仕組みを議論した。また、児童クラブの子どもたちのリズムを崩さないように、活動時間を大きく変更することなく、各施設の実施内容や回数の平等性に配慮した。活動内容を統一することで、事後の振り返りや検証がしやすい効果もあった。</p>

②ー1 研修・ワークショップ・講座等

期日	内容	対象者	備考
令和4年 11月12日(土)	研修「モデルプログラムの事前説明、 児童への接し方について」 振り返り:高校生ボランティア 実施施設:玉造キッズ1・2	開発委員(4名) 各施設支援員(15名) 行方市高校生育成会及び高校生 ボランティア(15名)	※1
12月26日(月)	研修「モデルプログラムの事前説明、職員(支援員)との顔 合わせ、児童への接し方について」 振り返り:高校生ボランティア 実施施設:北浦キッズ	開発委員(4名) 各施設支援員(4名) 行方市高校生育成会及び高校生 ボランティア(13名)	※2
令和5年 7月24日(月)	研修「ボランティアスキルアップ研修」 振り返り:高校生ボランティア 実施施設:麻生キッズ	開発委員 各施設支援員 行方市高校生育成会及び高校生 ボランティア	※3
7月25日(火)	研修「ボランティアスキルアップ研修」 振り返り:高校生ボランティア 実施施設:麻生東キッズ	4日間総計 76名	※3
7月31日(月)	研修「ボランティアスキルアップ研修」 振り返り:高校生ボランティア 実施施設:北浦キッズ		※3
8月1日(火)	研修「ボランティアスキルアップ研修」 振り返り:高校生ボランティア 実施施設:玉造キッズ1・2		※3
12月25日(月)	研修「ボランティアスキルアップ研修」	開発委員	※4

	振り返り:高校生ボランティア 実施施設:麻生キッズ	各施設支援員 行方市高校生育成会 高校生ボランティア 4日間総計 83名	
12月26日(火)	研修「ボランティアスキルアップ研修」 振り返り:高校生ボランティア 実施施設:麻生東キッズ		※4
12月27日(水)	研修「ボランティアスキルアップ研修」 振り返り:高校生ボランティア 実施施設:北浦キッズ		※4
12月28日(木)	研修「ボランティアスキルアップ研修」 振り返り:高校生ボランティア 実施施設:玉造キッズ1・2		※4

※1研修:講師 茨城県立玉造工業高等学校 教諭 駒場 智子 氏

「児童への接し方とものづくり体験実習上の注意点について」

※2研修:講師 株式会社明日葉 菊地 麻紀 氏

「ボランティア活動先での交流と留意点について ～自己紹介ゲームを通して～」

※3研修:講師 株式会社明日葉 菊地 麻紀 氏

「アイスブレイクを用いた児童との交流方法 ～サイコロトークを用いて～」

※4研修:講師 株式会社明日葉 菊地 麻紀 氏

「他者理解と自己開示による関係性向上の方法について」



【R4スキルアップ研修 児童への接し方とものづくり体験実習上の注意点について】



【R5スキルアップ研修 サイコロトーク】

②-2 実施にあたり、工夫した点や留意した点

スキルアップを含めたモデルプログラム研修については、参加者の負担軽減を考慮し、実践当日に時間を確保し実施した。また、研修に、アイスブレイクや自己紹介の工夫等、研修直後に実践できる活動を取り入れ、「ボランティアスキルアップ研修」と称し、参加者のスキルアップを図った。さらに、地域の実践者を講師とすることで、今後の繋がりや継続した活用を可能にする工夫を図った。ボランティアに積極的に関わる高校生を増やすための仕組みとして、参加者が普段から行っている活動を基本として、それぞれの強みを生かしたプログラム(活動の司会進行、レクレーション、ものづくり活動等)を再編成した。

ウ 実践

期日	内容	対象者	備考
令和4年 11月12日(土) 10:00~12:00	実践:土曜玉造キッズでのモデルプログラムの実践「ゆきだるまランタンづくり講座」 実施施設:玉造キッズ1・2	開発委員 各施設支援員 行方市高校生育成会 高校生ボランティア 2日間総計 55名 ※参加児童 57名	
12月26日 12:30~15:30	実践:北浦エンゼルキッズでのモデルプログラムの実践「お正月飾り作り教室」 実施施設:北浦キッズ		

令和5年 7月24日(月)	実践:「高校生ボランティアによる行方市放課 後児童クラブとの体験活動」※1 実施施設: 麻生キッズ	開発委員 各施設支援員 行方市高校生育成会 高校生ボランティア 4日間総計 76名 ※参加児童 137名	
7月25日(火)	実践:「高校生ボランティアによる行方市放課 後児童クラブとの体験活動」※1 実施施設: 麻生東キッズ		

※1実践内容:「アイスブレイクによる自己紹介」「たこ・たい手遊び」「キャップ積み上げ大会(オリジナルレクリエーション)」

※2実践内容:「〇Xクイズ」「しっぽとり鬼」「ジェスチャー当てクイズ」「干支飾りづくり(LEDを用いたものづくり体験活動)」



【R5実践活動 キャップ積み上げ大会】



【R5実践活動 集計を一緒に行う様子】



【R5実践活動 干支ものづくり体験】



【R5実践活動 しっぽとり鬼運営】



【R5実践活動 〇Xクイズ運営】



【R5実践活動 〇Xクイズ運営】

③ー2 実施にあたり、工夫した点や留意した点

1年目(令和4年度)は、開発したプログラムの妥当性を検証するため、児童クラブを2施設選定し、実施した。2年目(令和5年度)は、行方市内全4施設の児童クラブを利用している子どもたち全員に実施した。1年目の取り組み後のアンケートや委員からの提案により、実践日を夏冬の長期休暇中に、1クラブ当たり2回に改善した。また、プログラムの内容についても回数を重ねる毎に高校生会やボランティアがブラッシュアップできるよう、活動の進行を高校生が中心となって実施できるよう計画にした。

<プログラム全体の検証>

コロナ禍により企業のCSR活動が中止となるなど、放課後児童クラブにおいては、子ども一人ひとりの体験活動の機会が不足している。また、児童クラブだけでなく、高校生たちの体験活動についても同様の傾向が見られることが課題として上げられていた。そこで働き手体験活動を提供する担い手不足を解消し、放課後児童クラブにおける、子ども達の体験活動の充実を継続的に図っていくことを目指した。

特に、地域の人材を活用するにあたり、ボランティアに積極的に関わる高校や高校生会に焦点を当て、ボランティア育成を含めたプログラムを開発した。委員から高校生ボランティアの研修の持ち方について、1年ごとの更新で入れ替わりの多い高校生会には、研修した内容をすぐに実践できる機会を設定することで研修の効果を高められるのではないかと提案があり、研修と実践を同日にした。実践では、支援員と高校生ボランティアの顔合わせの時間を設定し、参加者同士が呼びかけやすいネーミングをネームカードに記入するなど、お互いにサポートしやすい関係を構築した。また、玉造工業高校によるものづくり体験を提供する活動を取り入れ、玉造工業高校の生徒が、新規ボランティア加入者にもものづくりをレクチャーすることにより、体験活動の内容を高校生自身が企画できるようにした。参加者や支援員へのアンケート結果において、モデルプログラムの実施も好評であった。

今後も継続的に実施できるように、当日までの流れを示した受け入れフローチャート(こども福祉課作成)や当日のタイムスケジュールと会場配置図を示した資料(児童クラブ運営委託業者作成)、高校生会による運営用司会原稿等、開発委員が率先して作成し、各施設でスムーズに運営できる資料をマニュアルとして編集した。

また、今回のモデルプログラムを通じて、高校生においては、地域活動の担い手としての意識の変容が見られ、今後、継続的に主体となって企画した活動体験を地域において実践していくことを期待する。